

▼修理に時間を要するため「入院」となったおもちゃを修理する野村さん



物を作る会社に勤めていましたが、定年退職後にエコフレンズいわくにで修理を行うスタッフが募集されているです。

「昔は物が少ない時代で、壊れた物も修理して大切に使っていました。初めて修理を試みたのは小学校低学年の頃。おもちゃのぜんまい仕掛けが外れたのを修理しようとした時でした。結局直すことはできなかったんですが、分解して中の仕組みを見た時にわくわくして楽しかったことを覚えています」

現在行っているおもちゃの病院では、壊れたおもちゃを持ってきた子供たちの目の前で修理しています。

その際に気を付けていることは、丁寧におもちゃを扱うこと。大事なおもちゃを傷つけないように子供たちに問診しながら慎重に修理しています。壊れた箇所は人形の腕が折れていたり、音が出なかったりとさまざまですが、その場で直らなかった場合はおもちゃに「入院」してもらうこともあるそうです。修理していく中で一番うれしいことは、やっぱりおもちゃが直った時。

「動いたときの喜びは一番で、きつとおもちゃを持ってきた子供よりも喜んでいえると思います」

この活動を通して子供たちに伝えたいことは「科学の面白さ」と「物を大切にすること」。野村さんの元には、三世代にわたって使っているおもちゃを直しに来た家族がいたそうです。「壊れたらごみというわけではありません。捨ててしまう前に、ぜひ一度来院してみてください」



▲分解されていくおもちゃに興味津々の子供たち



▲エコフレンズいわくににある、修理を行う作業場



物を大切にする

心を育む

Vol.103

野村 譲治さん
(錦見在住)

平成22年からリサイクルプラザ内にあるエコフレンズいわくにで家具やおもちゃの修理を行う。おもちゃの病院では副院長として壊れた物に新しい命を吹き込んでいる。

